

図画工作科における版画指導

島根県立浜田教育センター研修・相談スタッフ
指導主事 金 築 直 久

Ⅰ はじめに

「版画」は「心」を写す絵画である。我が国の人々はいにしえより「心」を大切にし、絵画や彫刻、書、音楽、詩などによって「心」を表現してきた。その中でも浮世絵版画を代表とする木版画は、日本人の「心」を写した代表的な芸術である。

小学校学習指導要領解説・図画工作科編には「児童は、自分の思いや願いを絵にしたリ、形に表したりする人としての根源的な表現の欲求をもっている。この欲求を満足させ、表現の喜びを味わうようにすることが、図画工作科の重要なねらいである。」とある。また、日本子どもの版画研究会会長の細田和子氏は同研究会編「子どものはんが」の中で「人間が柔らかい雨上がりの土の上に、足跡や手形をいっぱいつけて喜ぶのが版画体験の始まりと言われているように、原初的な喜びにつながるものです。」*1と述べている。雨上がりの柔らかい地面に絵を描き、裸足で歩いて自らの足跡を楽しむ。どろんこの手のひらをぺたぺたといたるところに押しつけて遊ぶ。こういった「写す」喜びを味わった経験は誰でももっているはずである。つまり版画は誰に教えられて始めた表現活動でもなく児童自らの根源的な欲求から始まった、児童の思いを写す造形活動なのである。この「根源的な表現の欲求を満足させ、表現の喜びを味わわせること」ここに図画工作科における版画指導の重要性がある。

しかし、本県の小学校においては、熱心な指導者はいるものの版画を題材に取り上げる必要性を感じながら、ややもすると敬遠されているのが現状である。平成19年11月に県下77校の図画工作科主任に対して行った浜田教育センターの調査によると「困っているのは版画指導、開催して欲しい講座は版画指導講座」という結果であった。その理由として、「下絵、彫り、刷りの指導方法がわからない。準備や片付けが大変」というものが大半を占めた。版画については県下各地で図工・美術部会での研修、熱心な指導者による授業実践が行われているが、残念ながら図画工作科・美術科担当教員の交流機会の減少、図画工作科を専攻する教員の減少などの理由から、県全体の盛り上がりになってはいない。

そこで、この現状を受け止め、「版画の指導法」についてできるだけわかりやすく紹介することで、版画に対する苦手意識が払拭され、版画指導の気運が高まるであろうと考えた。県内の小学校図画工作科における版画指導の充実に資することをねらいとし、さまざまな先行研究や授業実践事例を参考に、すぐにでも授業で使えるよう、できるだけ具体的な事例を紹介しながら本稿をまとめた。

*1 「子どものはんが」日本子どもの版画研究会編 2007 日本文教出版

II 研究の背景

1 学習指導要領の改訂

平成20年1月、新学習指導要領の改定案が示された。その中で図画工作科における目標は「表現及び鑑賞の活動を通して、感性を働かせながら、つくり出す喜びを味わうようにするとともに、造形的な創造活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う。」とされており、新しく「感性を働かせながら」という文言が加えられている。

現行の中学校学習指導要領解説美術編によれば、「感性とは『様々な対象・事象からよさや美しさなどの価値や心情などを感じ取る力』であり、知性と一体化して人間性や創造性の根幹をなす重要な資質である。」と記されている。今後、新学習指導要領においても、多少の文言の違いはあれ、感性は人間性や創造性の根幹となる資質として示されるであろう。「感性」は人生の道しるべ、豊かな感性を持った人は「豊かな情操」をもち、豊かな人生を歩むことができる。

この「感性」を育む具体的な手だてとして、図画工作科では「A表現」および「B鑑賞」の活動がある。幸いにして「B鑑賞」の指導については平成17年度、本センターの研究紀要^{*2}において、「先行事例を検討し具体的な指導方法を提案」したことにより、その後2年間で鑑賞指導の気運が一気に高まってきたところである。

そこで、豊かな「感性」を育むためのもう一方の活動である「感じたことや想像したことなどをもとにして、絵や立体に表したり、つくりたいものをつくったりする」という「A表現」について、県内図画工作科の授業における現状を分析、課題を把握する必要がある。

なお、正式な告示はなされていないので、本稿では前述の学習指導要領の改訂の方向も見据えながら、平成11年5月の小学校指導要領・解説を基本的な立場としてまとめるものとする。

2 県内の実態調査から

この2年間、本教育センターが主管する図画工作科・美術科関連講座のアンケートの中で特に目立ったのが、「版画についての研修をしたい」という希望であった。中でも小学校教諭向けの講座アンケートでその傾向が際だっていた。

そこで、さらに詳しく各校の実態を把握したいと考え、平成19年11月に島根県内77校の公立小学校図画工作科主任に向けアンケートをお願いした。以下はその結果と分析である。(資料編 「図画工作科に関するアンケート」の検討p13,14 参照)

*2 「平成17年度研究紀要 図画工作科・美術科における鑑賞の授業」

表1

○図画工作の授業を進める上で困っていること（延べ143名）

・版画に関すること	55.2%	79名
・描画に関すること	36.4%	52名
・造形遊び	3.5%	5名
・工作	1.4%	2名
・鑑賞に関すること	3.5%	5名

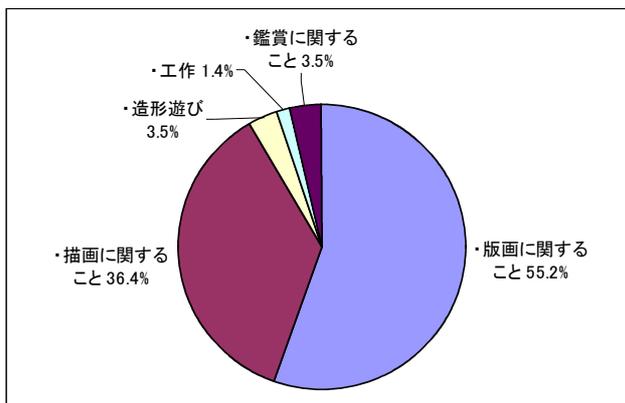
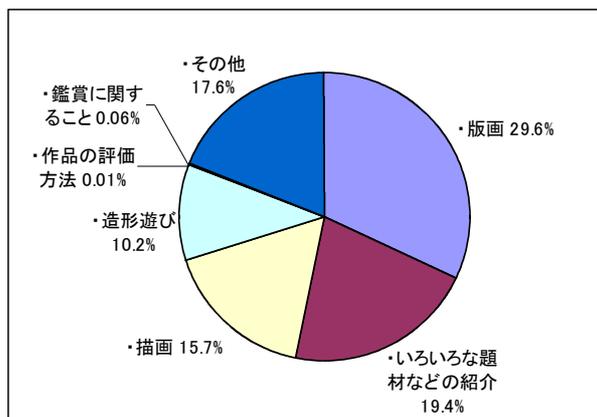


表2

○図画工作科に関して開設して欲しい講座（延べ108名）

・版画	29.6%	32名
・いろいろな題材などの紹介	19.4%	21名
・描画	15.7%	17名
・造形遊び	10.2%	11名
・作品の評価方法	0.01%	1名
・鑑賞に関すること	0.06%	7名
・その他	17.6%	19名



まずアンケートで突出しているのが「版画指導」についての悩みである。延べ143名の回答の内、79名（55.2%）が版画に関する悩みを抱えている。（表1）

その内訳は版画の種類・指導方法全般についての悩みから、具体的な彫り方・刷り方についての悩みなど多岐にわたっている。また、教育センターで開設して欲しい講座も「版画」が32名あり（表2）、双方で延べ175名と群を抜いている。このことは本県における図工専科の教員が減少し、実際に指導方法などを経験したり、校内外で研修したりする機会が少ないことが大きな理由だと考えられる。その表れとして、アンケートに「専門外の指導者のための講座」「専門外はついていけない」「実際に指導のしかたがよく分からない」「基本的なことを学べる講座」「教員により個人差」等の記述が目立つ。（「図画工作科に関するアンケート」の検討 p13,14参照）

このことから、「A表現」の活動の中で、特に版画指導に関し、版画についての基礎的な知識や具体的な指導方法について何らかの指針・指導の手がかりとなるものが求められているといえる。実際に学校訪問や地域の研修会などにおいて「版画の指導方法が

わからない」という声を耳にすることが多い。

この現状を受け止め、教育センターとしては今後、計画的に講座・研修を企画していかなねばならないが、中でも喫緊の課題として「A表現」の中の「版画指導」について早急に手だてを講じる必要がある。ただ、小学校教員を対象とした能力開発講座については、鑑賞教育への取り組みの3年目としてすでに次年度の計画を立てており、版画の講座を開講するのは早くても平成21年度以降となる。また、講座の定員が限られており、一度に多くのニーズに応えるのは困難である。

以上のことから、一般的に取り上げられている版画の基本的な指導方法をできるだけわかりやすくまとめ、紹介したいと考えた。併せて実際に指導されている指導者の指導方法や意見を紹介することで、小学校における版画指導の充実に役立つこととなるであろう。

また、アンケートでは子どもの個人差に応じた指導や一人一人違う子どもへの支援のあり方など「子どもに合った指導・支援のあり方」に悩む先生が多い。このことは教育センターへの教育相談件数が急増していることから伺える。図画工作科の授業だけの悩みではないだろうが、本稿で少しでも手がかりをつかんでいただければと思う。

そして「時数不足」についての悩みも多い。次の改訂における「各教科等の授業時数」は第1学年から順に68、70、60、60、50、50時間となっており、現在の時数と変わらない。しかし、ここに記された時数不足というのは教材研究、評価等の時間を含めてのことであろう。教育現場は多忙である。そういう現状からも本稿で少しでも教材研究のお役にたてればと考える。

III 研究の目的・方法

先の調査にも見られるように本県の図画工作科担当者は版画指導の重要性を感じていても「指導方法がわからない」、その必要性・重要性を感じているからこそ「何とかしたい」という悩みを抱えている。こういった悩みを少しでも解消するよう、版画についての基本的な指導方法を提案するのが本稿の目的である。一般的な版画を中心に、具体的に版画の指導手順や制作手順を紹介することで、アンケートにある「専門外」の「経験の少ない」指導者の一助となれば幸いである。

具体的には県内小学校へのアンケート調査をまとめ、現状と課題を分析、課題に関する先行研究や指導例を検討する。さらに県下の授業実践例を紹介することで、専門的な経験の少ない小学校の図画工作科担当者が「すぐにでも実践できる」版画の指導方法を提案し、小学校図画工作科における版画指導の充実に資することをねらいとする。

版画の一番のおもしろさは、転写された刷り紙をめくる瞬間である。子どもは一様に「おー」とおどろき「やったー」と喜ぶ。その瞬間を子どもとともに喜ぶ教師を一人でも増やしたい。

ただ、このような事例の紹介はややもすると、教材のおもしろさや目新しさに目を奪われ、「この授業で育てたい資質・能力は何か」ということがおろそかになりやすい。

「やっておもしろかった」「おもしろい変わった作品ができた」だけでは授業ではない。そういう観点から、事例の紹介もできるだけ版画の特徴や「授業のねらい」を示す。

IV 研究の実際

指導方法について具体的に述べる前に、「版画」についてまとめてみたい。

1 版画とは

「版画」とは何か。いろんな解釈があろうが、ここでは「版を写した絵画」と定義づけたい。つまり、さまざまな方法を工夫して版をつくり、主に紙に写して表現する絵画である。ただ、「なお、棟方志功は1942年（昭和17）から版画を「板画」と記すことを表明した。」*3「棟方が『板』を使うのは、木の魂をじかに生み出すため、天の声を聞くという意味がある。」*4という言い方もある。従って版画の名前は子どもたちとともに命名し、身近な造形活動として取り組ませていただきたい。

子どもたちが教師の支援によって、棟方志功のように一心不乱に取り組んでくれれば、きっと刷り上がった時の喜びも倍増するに違いない。

2 版画の歴史

1) 版画のはじまり

「版画の始まりは“うつる”ということの発見からです。人間がなかまをつくって、狩りをしてくらしていた、石器時代のことです。動物の姿を見つける前に、これはシカの足あと、これはイノシシの足あと、これはクマ、これはキツネ、これはウサギ、そして、これは仲間の人間の足あと、と見分けることは、だいたい、だいたいなことでした。」*5どろんこの手のひらをぺたぺた押しつけて遊び、雨上がりの柔らかい地面の上を裸足で歩いて自らの足跡を楽しむ。こういった経験は誰でももっているはずである。周知のように縄文式土器も粘土の上に縄目を押しつけてもようをつけた「版画」である。石器時代、縄文時代のように「生きること」に密着した理由でなくても、私たちは「写す」ことに対し、根源的な欲求をもっている。

このように版画は人類が誕生して以来、ずっと身近にあり、私たちが子どもの頃から自然に楽しんできた造形活動である。版画の授業において、版画の歴史についてもふれていただきたい。

2) 木版のはじまり

「中国の唐（617～907）の時代、木版がつくられるようになります。・・・今のこっている、世界で一番古い版画は、中国の敦煌で発見されたもので、お経の扉

*3 「棟方志功 いのちを彫る」 棟方板画美術館監修 2003 p6

*4 「棟方志功 いのちを彫る」 棟方板画美術館監修 2003 p53

*5 「やさしい版画教室」 大田耕士 編 1984 p104

絵です。」*6 仏教が盛んだった唐では木版でお経などがたくさん刷られた。そして6世紀半ば、仏教が日本へもたらされたのである。

3 日本の版画

「日本の木版画も、はじめは仏教に関係したものでしたが、だんだんとかわって、江戸時代（1623～1867）には、世の中のこと、自然のことをあらわした、浮世絵になります。それはたいへん美しいので、錦絵ともいわれます。この浮世絵で、世界の人々が日本を版画の国とよぶようになります。この浮世絵は、ヨーロッパの新しい美術に、大きな影響をあたえます。」*7 このように日本では江戸時代に浮世絵版画がさかんになり、その魅力は万人が認めるところである。

「わだばゴッホになる」とゴッホの「ひまわり」に衝撃をうけた棟方志功。そして彼に影響を与えたゴッホはまた日本の浮世絵版画に強い影響を受けた。何とも因縁深い話であるが、それほど版画は見る人の心を打つ世界共通の芸術であるといえよう。

しかし、私たちはいつのまにかパソコンで年賀状をつくるようになった。今では素朴な版画の年賀状はほとんどと言っていいほどみられない。日本人の「心」をどこに忘れてきたのだろうか。

4 版画の種類

版画は「版の形式」による分類、「版の材料」による分類などいろいろな分類方法があるが、ここではまず「版の形式」によって分類してみる。ここに掲げた以外たくさんあるが小学校においてあまりなじみのない版画は混乱が予想されるので記載しない。このほかにもいろんな形式を併用したりいろいろ工夫された版画があるが、本稿のねらいと離れるので割愛した。

また、小学校では「はなが」と記すことが多いが、本稿では「版画」と統一した。学年や実態に応じて「はなが」と使われてもよいであろう。

5 版画の授業

以下に記すことは版画資料編にも詳しく述べているので参照いただきたい。

1) 授業の基本的な流れ

版画の授業は概ね次のように進められる。

〈授業の流れ〉

(1) 題材を決める

(2) 下絵を描く

(3) 版をつくる

〈教師の準備・支援〉

興味をもたせる題材名 材料・用具・場所の準備

参考作品 構図の指導

安全への配慮

*6 「やさしい版画教室」 大田耕士 編 1984 p105

*7 「やさしい版画教室」 大田耕士 編 1984 p105

(4) 刷る

協力・助け合い

(5) 鑑賞

子どもが意見を出しやすい環境づくり

(1) 題材を決める

①題材

子どもの実態、教師の願い、季節、地域の特徴などから何を題材にするか考える。家庭では家族の顔を思い浮かべながら、体調を考えながら、メニューを考え料理をつくる。これは料理を作る人の最も幸せな時間であろう。同じように「この題材でこんな力を身につけて欲しい」という教師の願いで題材が決まる。教師は子どもたちの喜ぶ顔を思い浮かべながら、題材を考える。教師の至福の時間である。

②題材名

どの授業でも、その導入で「なに？おもしろそう！やってみよう！」と子どもに興味・関心をもたせる工夫が大切。教師のアイデアひとつで子どもは版画の世界に入り込む。子どもに興味をもたせる題材名を考えよう。

単に「はながをつくろう」ではなく

「ローラーで遊ぼう～ころころ・ごろごろ・どこまでいくの～」

「わくわくどきどき・はながワールドへ！」などとする。

資料の実践例「版画～私の実践」でも次のように工夫されている。

「がんばれ！恵曇の漁業」（永井先生）

「ぺたぺた あそぼう きれいなさかなをつくろう」（葉末先生）

「希望を持って未来へ進め六年生」（富田先生）

「春の風を作ろう」（奥原先生・山本先生）

③材料、用具、場所の準備

版画は確かに準備・片付けが大変であるが、子どもたちの喜ぶ顔を思い浮かべればその苦労も楽しみに変わるのではないだろうか。具体的に必要な用具・材料については、版画の紹介の中にまとめる。

また、版画の用具・用語についての詳細は「授業の実践事例集」の中にも詳しく紹介されているし、「版画の用具・用語辞典」も併せて参考にさせていただきたい。

(2) 構図を考えて下絵を描く

①構図・下絵

版画の善し悪しは特に下絵をどう描かせるか、つまり構図で決まると言ってもよい。特に単色で刷る版画の場合は色でごまかしがきかないので、この白黒の配置、構図の善し悪しが顕著に表れる。そういった観点から、「版画の用具・用語辞典」にも触れているが、寄稿いただいた先生方の授業実践から生まれた作品はいずれも白黒の比率や配置、構図の工夫がなされたすばらしい作品である。

特に画面いっぱいに大きなお腹を描いた朝波小学校「じごくのそうべえ」、

周りを白くして主題を浮き上がらせる工夫がなされた出雲郷小学校「4年生の思い出」の作品の数々は白黒版画の良さを存分に味わうことができる。

②下絵を版に写す

ほとんどの版画は転写すると左右反対の絵になる。そのことを子どもにも理解させながら下絵を描かせ、必要に応じて版に写す。詳細は版種ごとに示すが、主に使う方法として次の方法がある。

ア 版に直接下絵を描く

- ・版に鉛筆などで直接下絵を描く
- ・この場合左右反対に刷り上がる

イ 別の紙に下絵を描き転写する

- ・版と同じ大きさの画用紙などに6Bぐらいのやわらかい鉛筆やコンテなどで下絵を描く（版に転写しやすい）
- ・下絵を版にのせ、下絵の上からバレンで強くこすり転写する
- ・この方法は刷り上がりが下絵と同じ向きになる
- ・木の板には石けん水を塗っておくと転写しやすい

ウ カーボン紙で転写する

- ・下絵をトレーシングペーパーに描く
- ・トレーシングペーパーを逆にして版にのせ、カーボン紙で版に写す
- ・この方法は刷り上がりが下絵と同じ向きになる

(3) 版をつくる

特に単色で刷ることの多い、板紙版画や木版画は「人物をどう彫るか・周りをどう彫るか」「人物を黒くするか・周りを黒くするか」など、主題を浮き上がらせる工夫」が大切である。（版画資料7：木版画編参照）

(4) 刷る

①刷り紙

版画によって若干の違いはあるが、インクで刷る場合は和紙が基本である。刷るときに刷り紙の縁を持つとどうしても汚れるので、必ず版の縁より四方5cm以上大きいサイズで刷る。

刷り紙は、曲がったり絵がはみ出さないよう、版の下に敷いた「見当紙」に合わせてのせる。

②バレン

基本的に竹の皮のバレンが刷りやすい。バレンを使わせるときは「手のひら」で刷るという意識を持たせることである。

③作品を台紙に貼る

- ・刷り上がった作品を台紙に貼る前に、作品の縁を切り取る。例えば木版画では、作品の縁を5mmほど残して切り取る。
- ・貼るときは作品の裏全体にのりをつけるようなことをせず、作品の4隅とその間に数カ所のりをつけて貼り、10分ほど画板を乗せておけば、

しわが寄らず、きれいにのり付けされる。

(5) 鑑賞

鑑賞について小学校学習指導要領では「児童が、自分たちの作品などに関心をもって見るとともに、一人一人の感じ方や見方などを深めていくようにすること」をねらいとしている。従って、よく授業で見られる導入の場面や、終末の場面などに限らず、「鑑賞」の時間は可能な限り設定してほしい。

気楽に自分の感想を言える雰囲気の中で、教師のコーディネートにより、お互いの思いを受け止め分かり合おうとしながら作品を鑑賞することにより、子どもたちは新しい価値に気づいていく。

2) 各学年で扱う版画の授業の進め方・作品例

島根県造形教育作品展の出品作品や、県内で多く使用されている小学校の教科書をみると、おおむね次ような版画が取り上げられている。そこで、本稿では、この一般的な版画を中心に、取り組みやすいようできるだけ具体的に版画の指導手順を紹介したい。なお、それぞれの版画の具体的な指導方法は該当する版画資料のページを参照いただきたい。

また、小学校では「フロッタージュ、スタンプング・・・」などは使わないので、児童に版画の名前をつけさせると一層興味をもって取り組むであろう。

(1) 版画の用具・用語あれこれ

No.	版画のなまえ	主に扱う学年	版画資料No.
1	版画の用具・用語辞典		1

(2) いろいろな版画（前半は単色、No.10以降は多色刷りで紹介）

No.	版画のなまえ	主に扱う学年	版画資料No.
2	こすりだし（フロッタージュ）	1年生	2
3	転写版画（凸面転写）	1～2年生	3
4	紙版画（単独版）	1～3年生	4
5	紙版画（台紙版）	3～4年生	5
6	いろいろなものを貼って（コラグラフ）	3～5年生	6
7	木版画（単色）	4～6年生	7
8	板紙凸版画・凹版画	3～4年生	8
9	ステンシル	5～6年生	9
10	モノプリント版画	1年生	10
11	型押し（スタンプング）	1年生	11
12	スチレン版画	1～2年生	12
13	マーブリング	3～4年生	13
14	スパッタリング	5～6年生	14
15	木版画（一版多色）	5～6年生	15
16	いろいろな版画（掘り進み版画など）	5～6年生	16

6 各校での実践

各校で熱心に指導され、島根県造形教育作品展や版画展などにもすばらしい版画作品を出品なさっている指導者に授業の実践例を紹介いただいた。基本的な版画の制作例に限らず、複合的な取り扱い、版画を使ったアニメーション、学校行事での版画の活用など、それぞれの先生方の工夫が随所にちりばめられており、非常に参考になる実践である。

また、先のアンケートのニーズにお応えするべく「個に応じた支援」という観点から、特別支援学級での実践も寄稿いただいた。これらの実践例を参考に学校の実態に応じていろいろくふうしていただきたい。そして子どもたちとともに版画のすばらしさを体験していただければと思う。

なお、本稿は小学校の図画工作科の担当者を対象にまとめたため、小学校図画工作科（一部中学校美術科、特別支援学級）担当11名の先生方に寄稿をお願いした。詳しくは資料編に載せたそれぞれの実践をご覧いただきたい。今回お願いした先生方の他にも版画については県下の高等学校・特別支援学校の先生方も熱心に制作、ご指導なさっているので、別の機会にぜひご紹介したい。

- ①笠井 修先生（大田市立朝波小）[お話の絵(じごくのそうべえ)] 板紙凸版 2年生
- ②永島敬子先生（東出雲町立出雲郷小）[4年生の思い出] 木版画 4年生
- ③永井孝夫先生（松江市立恵曇小）[がんばれ！恵曇の漁業] 木版画 4年生
- ④福間 亨先生（浜田市立岡見小）[主人公になったつもりで] 合板リトグラフ 3・4年生
- ⑤奥村文子先生（松江市立中央小）[色版画を楽しもう]一版多色木版画 4年生
- ⑥富田敦子先生（松江市立津田小）[希望をもって未来へ進め]六年生] スチレン版画 6年生
- ⑦葉末泰子先生（益田市立安田小）[べたべたあそぼう きれいなさかなをつくろう] 版遊び 特別支援学級
- ⑧奥原千幸先生・山本啓湖先生（松江市立玉湯中）
[春の風を作ろう] コラグラフ 特別支援学級
- ⑨奥原千幸先生（松江市立玉湯中）[ユニークな顔を作ろう]板紙凹凸版画 特別支援学級
- ⑩下垣 明 先生（出雲市立南中）[版画アニメーション]ステンシル版画 中学2年生
- ⑪伊藤美和先生（飯南町立頼原小）[木版画指導を通して]木版画4・5年生

お忙しい中のご寄稿に感謝申し上げるとともに、この紹介を機に寄稿いただいた先生方を中心とした県下各校のネットワークの広がりを期待したい。

V 研究のまとめと今後の課題

版画の楽しさは刷り紙をめくる瞬間であり、自分の思い、心を「写し」多くの人に「伝えること」である。たとえ専門的な経験がなくても、子どもと一緒に「できた！」と喜ぶ教師を一人でも増やしたいと願い本稿をまとめた。

指導方法や留意点をなるべくわかりやすく示し、具体的な実践例や作品を紹介することにより、少しでも版画指導に悩みを抱える担当者のお役に立てるものとなったのでは

ないかと考える。特にご寄稿いただいた11名の指導者の実践例は大変貴重なものである。本稿により、版画指導に対する苦手意識を払拭し、本県の版画指導熱が高まっていくことを期待したい。

今回は一般的な基本的な版画的指導方法を中心に示したが、いろんな工夫をした版画も数多く発表されている。授業時数不足の現状から、いっそう指導方法の改善が必要となっている中で、さらに手軽に取り組める新しい版画についての研究が課題である。

また、県全体のネットワーク作りによる情報交換、各地での研修会等の盛りあがりが見込まれるとともに、教育センターとして、さらなる現場のニーズに即した研究、講座の企画・運営が必要である。

VI おわりに

今、「図画工作はなぜ必要なの」と問われている。学習指導要領が求めている知識、技能、表現力、思考力・判断力、課題解決力などの「学力」を、数値的に測りにくいといわれるわれわれの教科はその存在理由をいろんな方法・場面で明らかにする必要がある。たくさん刷れるという版画的利点を生かし、子どもの版画作品が校内や地域に掲示されたり配布されたりすることで、たくさんの人に子どもの思いが伝わり、子どもの成長を感じていただけるはずである。

3月になると、センターへ送付されてくる研究のまとめ、研究論文が急増する。県内外の学校、教育委員会、教育研究機関から送られてくる「研究紀要」の表紙を飾るのはうれしいことに、ほとんどと言っていいほど子どもの作品、それも「版画」である。おそらく文字ばかりの冊子に子どもの版画が潤いを与えるからであろう。学校教育法には「生活を明るく豊かにする音楽・美術・文芸等について基礎的な理解と技能を養うこと」（第2章小学校18条8）の一文がある。絵を見ることでほっとする、心がなごむ、人の心を豊かにする、つまり「生活を明るく豊かにする」これこそ「図画工作科」の存在理由ではないか。

また、「平成19年度青森市小・中学校児童生徒版画集30はまなす」にはすばらしい作品が収録されている。その中で青森市中学校教育研究会美術部会部会長である三上雅生氏は「教師自らが鋭敏な感覚を持って、子どもの指導に当たることが重要であると考えます。道ばたに咲いていた小さな花を子どもがきれいだと感じて拾ってきたそのときの教師の最初のことばが『よく気がついたね。小さくてきれいな花だね。・・・』となるのか、あるいは『道草しないでさっさと登校しなさい。・・・』となるのかで、子どもの感性も左右されるのではないのでしょうか^{*8}と述べている。ややもすると「目に見える学力重視」で追いやられそうな図画工作・美術科においては、担当教師自身がまず自らの感性を磨き、心豊かな子どもを育てたい。

*8 「平成19年度青森市小・中学校児童生徒版画集30『はまなす』」

本稿をまとめる間、久しぶりにわくわくする時間がもてた。「この版面をよりわかりやすく簡単に説明するにはどうしたらよいか、授業ではどう扱えばいいか」、何百枚の原稿用紙での説明より、一瞬の映像、一枚の図や写真にはかなわないというジレンマの中で、自らの伝達能力を改めて問いつつ、教師として忘れかかっていた感動を思い出させていただいた本当に貴重な時間であった。

本稿をもとに版面に気軽に取り組み、子どもとともに「写し取る喜び」を味わっていただければ幸いである。

本紀要の発行にあたり、県内外の図画工作・美術関係者にご指導、ご協力を賜った。末筆ながら心よりお礼を申しあげたい。

引用文献・資料

【引用文献】

- *1 「子どものはんが」 日本子どもの版画研究会編 2007 日本文教出版
- *2 「平成17年度 研究紀要」 角 美幸 浜田教育センター
- *3 「棟方志功 いのちを彫る」 棟方板画美術館監修 2003 p6
- *4 「棟方志功 いのちを彫る」 棟方板画美術館監修 2003 p53
- *5 「やさしい版画教室」 大田耕士 編 1984 p104
- *6 「やさしい版画教室」 大田耕士 編 1984 p105
- *7 「やさしい版画教室」 大田耕士 編 1984 p105
- *8 「平成19年度青森市小・中学校児童生徒版画集30『はまなす』」
青森市小学校教育研究会図画工作科研究部会・青森市中学校教育研究会美術部会編 p9

【参考文献】

ここでは本来の図画工作科における版画指導に資するというねらいから主に小学校で扱いやすい版画についてのみ紹介したが、版画に関する書物、研究物もたくさん出版されている。

- 「子どものはんが」 日本子どもの版画研究会編 2007年発行日本文教出版株式会社
- 「プロに学ぶ基本と作品づくりー木版画「テクニック」 林和一著 2006年 日貿出版社
- 「子どもが楽しむーカラーはんがの世界ー技法と実践」 石田壽男著
平成12年発行 株式会社サクラクレパス出版部
- 「現代木版画から年賀状まで『新しい木版画入門』」2000年 多摩美術大学校友会編
- 「やさしい版画教室」大田耕士編 1984年 ほるぷ出版社
- 「図画工作教育シリーズー基礎と実践ー版画」昭和61年 日本文教出版株式会社